

(様式 2)

議事録番号

提出 2007 年 1 月 15 日

会合議事録

研究会名：軟 X 線実験技術研究会、原子分子の内殻励起研究会

日 時：1 月 12 日 (金) 16 時 30 分から 17 時 50 分 (放射光学会総会
が延びたため計画よりも開始が遅れた)

場 所：放射光学会休憩室

出席者：(議事録記載者に下線) 上田 潔、岡田和正、金島 岳、下條竜夫、
齋藤則生、鈴木 功、田林清彦、為則雄祐、平谷篤也、森下雄一郎、長岡伸一
計 11 名

議題：(1)活動の報告と計画

(2)代表副代表の改選

(3)施設報告

(4)その他

議事内容(敬称略)：

(1)活動の報告と計画

(A)報告

(a)平谷、上田、Prümper、齋藤、長岡、本間、下條、岡田、田中(健)、吉田、
和田、Harries で XFEL に「原子分子クラスターのコヒーレント多次元分光」と
いう題目で応募したが、具体化が足りないという理由で不採択であった。

(b)平谷を中心に基盤研究企画調査を申請する予定であったが、企画調査の募
集が無くなったため応募できなかった。

(c)長岡、齋藤、上田、伊藤(健)、高橋で第 20 回日本放射光学会年会・放射光
科学合同シンポジウムで企画講演 3「軟 X 線による気体原子・分子内殻励起実
験技術の新展開」を行って、約 50 名の参加を得た。

(d)下條を中心に研究会「最近の BL27SU の成果と原子分子の多電子光過程研究
の新展開」を行うが、詳細については次週には案内を送る予定である。

(e)長岡が BL27SU ビームラインサブグループの歴史をユーザー情報誌に投稿す
る予定であったが、過去の代表 1 名が多忙のため、原稿ができていないとの報

告があった。

(B)計画

(a)研究会で当該分野の新展開を図り SPring-8 での課金等に対応するため、科学新聞 2 面に掲載されている科学振興調整費(先端融合領域イノベーション創出拠点の形成)や XFEL への再応募等を検討し、議論の結果、XFEL が再度公募された場合は先回の応募の中のレーザーに関する部分を削除して再応募することになった。この件については(A)(d)で再度検討することになった。

(b)ビームライン担当者から BL27SU でどういう実験をするかを考えて欲しいという発言があり、(A)(d)で検討することになった。また、課金や旅費についてはパワーユーザーや外来研究員という制度を活用して対応して欲しいという発言があった。

(2)代表副代表の改選

軟 X 線実験技術研究会の代表を東北大学多元研の上田潔教授に交替し、副代表は留任することとなった。原子分子の内殻励起研究会の改選は(A)(d)で行う。また、1 年後に 2 研究会を統合する可能性について今後検討することになった。

(3)施設報告

隣接する理研のビームラインの建設が 2008 年夏以降に行われる可能性があるため、今冬エンドステーションの入れ替えを行うとの報告があった。また、理研の装置が無くなり原研の装置が入ること、ガスと固体の比率は 3 : 2 程度であることの報告があった。

(4)その他

1999 年 6-7 月に BL27SU で光が初めて出て 10 周年を記念し、2009 年の ICESS のサテライトで 1 日ワークショップをしてはどうかという提案があり、SPring-8 内部で検討することとなった。